

1 学校として目指す授業

自律した学習者の育成を図る授業（児童の主体的に学ぶ力や自己調整力の育成を図る。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に努め、学力向上を図る。）

2 児童の現状

（１）「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校 6 年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問調査の分析
・国語・算数共に都・全国を上回っており、学校として学力は高い水準にある。 ・国語では、「記述式」(64.9%)が選択式(72.5%)・短答式(79.3%)より約8～14ポイント低い傾向にある。 ・算数では、「C変化と関係（割合・比例など）」領域の正答率が低かった。また「思考・判断・表現」が低い傾向にある。	（都・全国と比較して） ・基本的な生活習慣（朝ご飯喫食率等）が整っている傾向にある。 ・学校における学習活動に対して肯定的な傾向が高い。 ・平均学習時間が平日、休日ともに高く、ICT活用率が高い傾向にある。

（２）都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（小学校 4 ～ 6 年生）

・学習の「量」（家庭学習時間・塾の時間）は学年が上がるほど増える一方、「計画・見通し・振り返り」という学習の「質」は5年生で最も弱くなっており、量と質のギャップが生じている。
・メタ認知的な行動（振り返り、メモ、自分の考えを伝える）は学年を問わず全体的に弱く、特に算数の文章題・計算の見直しが顕著に弱い。
・学力に応じたコース分け（習熟度別指導）への肯定感は学年を通じて高く、児童自身が「自分に合った学び方」を求めている。

（３）その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
質問紙調査を年 3 回実施し、子どもたちの学びに関する意識の変容を検証している。令和 7 年度の結果として、授業において学びの自己調整して取り組もうとする意識が薄い傾向にあることが明らかとなった。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・学習に対して前向きに取り組んでいる児童が多い一方で、向社会性や自己有用感などの項目については、東京都や全国と比較して同等の割合となっており、他の調査項目と比較して低い割合となっている。基礎的・基本的事項の確実な定着を図る指導と共に、課題に合わせて解決方法を自分で工夫できるような指導をするなど、児童が自己有用感を高めながら、主体的に学ぶ力を育む必要があると考える。
・いずれの教科においても、正答率は比較的高い。しかし、国語の記述式（2 四 47.1%）や算数の二次元表の読み取り（4（3） 33.3%）など正答率が 5 割に満たない設問があり、習熟度の低い児童も多くいることを踏まえ、個別最適な学びを重視し、協働的な学びとの一体的な充実を図りながら、更なる学力向上を目指していくことが課題である。

4 学校全体の授業改善の視点

・自律した学習者の育成を推進し、自己調整力を高めること
・指導の個別化と学習の個性化による「個別最適な学び」を図ること
・多様な他者とかかわりあいながら、新しい理解や価値を見いだす「協働的な学び」を図ること

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	自ら考え、学ぶ力を養うために、自分の考えをもてるよう、教科書等を活用して例を示すようにする。ペア学習の中で自分の考えを発表したり質問や感想を伝えたりする活動を多く設定する。				学ぶ土台として、具体物の活用などを通して、計算や数の仕組みなど基本的な事項を確実に身に付けさせる。自分の考えをペアで伝え合う活動を設定し、伝え合う力を養う。				実生活と学校での学びをつなぐために、体験する活動と、体験を通して感じたことや考えたことを表現し、互いの考えを比べたり関連付けたりする活動を意図的・計画的に設定する。		少人数グループで活動を行い、基礎的な部分や表現の工夫を話し合う場面を意図的に設定する。		一人ひとりの児童の気付きを交流し合う場面を意図的に設定し、見方や感じ方を広げていけるようにする。				楽しく遊ぶことを土台として、児童同士で動きの良い所を見付け、伝え合い、自分の動きに生かせるような活動を意図的・計画的に設定する。				安心して自分の考えを伝えられるようにするために、全体で話し合う前にペアや小グループで考えを伝え合う場面を設定する。	
中学年	自分の考えをもち、必要感をもって伝え合えるように、ペアや小グループ学習の中で話し合いの場面を設定する。そのうえで、叙述に即して考えを深められるようにする。		自分が資料から気付いたことや読み取ったことを、共有したり伝え合ったりする時間を意図的・計画的に設定する。		基礎的知識の定着を土台として、検討の場面では、協働的な学びを促す手だてを設定する。まとめや振り返りの時間を大事にする。		身近な事象に興味をもち、予想や考察を文章や絵で表現できるようにする。また、考え、表現したことを共有したり伝え合ったりする時間を設定し、考えの幅を広げられるようにする。				音楽で気付いたことや感じたことなどを、ペアやグループで伝え合う場面を設ける。また、表現の工夫ができるよう、少人数の活動を意図的に設定する。		形や色などの感じを基にイメージしたことを伝え合う場面を意図的に設定し、表現に生かしたり発展させたりできるようにする。				学習課題に対して、自分の思いや願いから一人ひとりがめあてをもち、自己の課題を解決するために、協働的に学べるような場面を意図的・計画的に設定する。				主題に対して多面的・多角的に考えられるように、手立ての工夫を行う。自分の考えをもち、共有したり伝え合ったりする場面を意図的・計画的に設定する。	
高学年	自分の考えをもち、話し合いの目的を明確にして活動する。活動形態を工夫したり、ICTを活用したりすることを通して、互いの考えを共有する機会を設定し、自分の考えを深めたり、広げたりする。		資料から読み取ったことや調べたことをペアやグループで共有したり伝え合ったりする。事実から深い学びにつながるよう考察する力を高めていく。そのために個に合った資料を複数用意する。		端末やプリントなどにより、全員に基礎・基本の力を身に付けられるようにする。学び合いの時間を意図的に確保することによって、多様な考え方を身に付け、考えを深められるようにする。		身近な事象から問題を見だし、根拠をもって仮説を立てることで見通しをもち、予想と結果を比較できるようにする。考察では、結果から考えられることを文章で表現し、共有する活動を設定する。				自らの課題を考え、それに向かって解決する場面を設ける。また、思いや意図をもち、主体的に表現を工夫することができるよう、少人数の活動を設定する。		形や色などの造形的な特徴を基にイメージしたことを伝え合う場面を意図的に設定し、新しい自分のイメージをつくりだすなどの展開につなげるようにする。		問題を解決する際、自分に適した手だてを選べるよう教材を工夫する。考えや意見を伝え合う場面を意図的・計画的に設定し、深い学びにつながるようにする。		運動に対して、学習内容を捉え、課題解決に向けて自己決定・自己選択できるような場面を設定し、仲間とともに技能を高めたり、思考を促したりできるようにする。		基礎的な知識の定着を土台として、交流し合うスモールトークを積極的に取り入れる。また、目的をもって自分の思いや考えを伝え合えるような場面やゴールを設定する。		主題に対して、多面的・多角的に捉えられるよう、意見を共有する。ICTを活用しながら小グループや全体での議論する場を意図的に設定する。	